

令和 6 年度

「運営に関する計画」

大阪市立巽東小学校

令和 6 年 4 月

大阪市立巽東小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(生活面)

- ・学校全体でポジティブ行動支援等に取り組んだ結果、主体的に行動できる児童が増え、きまりを守り、互いを尊重し、楽しく学校生活を過ごすことができる児童が育ちつつある。
- ・ポジティブ行動支援の取り組みや特別活動の活性化により徐々に自己肯定感が高まりつつある。引き続き児童会活動や学級活動を充実させ、児童が活躍できる場を設けるとともに、キャリア教育など将来の目標を持たせるきっかけとなる取り組みを進めていく。
- ・自分の感情をコントロールしたり、思いをうまく伝えられなかったりすることがトラブルへと発展してしまうケースがある。個に応じた支援をさらに進める必要がある。
- ・SNS上での誹謗中傷やオンラインゲーム上でのトラブルが増加している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、学校に登校しづらくなる児童が増加している。

(学習面)

- ・小学校学力経年調査の結果を見ると、学年・教科によっては大阪市平均に近づいているものもあるが、依然として学力差が大きく、特に低位層の割合が高い。学習意欲の高まりはうかがえるが、学習習慣や読書習慣等の定着などには2極化がみられる。
- ・国語科の研究を進めた結果、物語文の「読み」を通して自分の考えを進んで表現できる児童が増えた。引き続き、国語科を中心に授業研究に取り組むなど、教員の授業力の向上に努める。
- ・放課後学習教室などの補充学習の成果が表れ、基礎学力の定着がみられる児童もいるが、主体的に学習に取り組む意欲や態度には差がある。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進めるとともに、ICTの活用や教科横断的な学習などを取り入れ、個別最適な学びや協働的な学びを進める必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、運動する機会が減り、体力の低下が顕著に表れている。

中期目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 88% (R3:83.3%) 以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度より向上させる。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じ

て、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 38%以上（R3:33.2%）にする。

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78%以上（R3:73.3%）にする。

- ・令和 7 年度の全国体力・運動能力調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 73%以上（R3:68.4%）にする。

- ・令和 7 年度の校内アンケートにおける「積極的に手を挙げて授業に参加していますか」の項目について「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 80%（R3:74.9%）以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・協働学習支援ツールを用いた学習を週 2 回以上実施する。

- ・ゆとりの日を月に 1 回設定・実施する。

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上（R3:73.9%）にする。

- ・令和 7 年度全国学力・学習状況調査の「5 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、10%（R3:2.6%）以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。（R5 83%）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。（R5 83%）

- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度（R5 78%）より向上させる。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上（R5 42%）にする。

- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。（R5 67%）

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。（R5 67%）

学校園の年度目標

- ・学校アンケートで健康に関する項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 56%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をと答える児童の割合を前年度（R5 67%）より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進に関しては、年度当初にたてた目標を達成することができた。昨年度までの様子から、本校の児童にとって、たて割り班活動が有意義なものであることが分かっていたので、今年度はたて割り班活動を多く取り入れた。子ども祭りの復活や毎週の集会、清掃や休み時間に異学年と交流する活動を多く取り入れた。どの活動にも子どもたちはとても楽しんで取り組むことができた。ポジティブ行動支援にも継続して取り組み、子どもたちのよい行動を認め、ほめることで、良い行動が広がるようにしている。低学年の児童は、良い行動をしたときにもらえるシールが励みになっている。

学力・体力の向上に関しては、学力に関して目標を達成することができなかった。算数を研究教科にして、重点的に取り組んできたが、学年が上がるにつれて、全国平均との差が大きくなる結果となった。算数の授業において、自分の考えをノートに書き、書いたことを友達と交流することで、考えを深められるようになってきているが、学習内容が定着していないという課題が見られた。学力に課題のある児童に対しての支援が今後の課題である。

体力面では、目標を達成することはできたが、体力・運動能力調査の結果では、全国平均との差が大きい種目が多い。日常的に体を動かすことができるように、体育の授業や休み時間の過ごし方など、改善していく必要がある。

教育環境の充実では、端末は日常的に活用しているが、目標の数値には達成することができなかった。働き方改革に関しては、放課後の会議の時間などを改善したため、教職員の超過勤務時間は減少している。読書に関しては、学校アンケートではよい結果であったが、経年調査では低い数値であった。ビブリオバトルなど、子どもたちの興味関心が高い活動は、引き続き実施していく。

(様式2)

大阪市立巽東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 83%) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R5 83%) ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度(R5 78%)より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 集団作り、仲間づくりの取り組みを充実させ、子どもたちが楽しく学校に来ることができるようにする。(河野)	B
指標 ① ピア・サポート活動を取り入れた取り組みを学期に1回実施する。 ② 6月までに人権教育実践計画を作成、全体に周知し、年度末に実践の結果を報告し、次年度に繋げる。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめや暴力行為、不登校を生まない学校づくりを進める。また、諸問題の早期発見、早期対応を進めるために学校全体で組織的な対応を行う。(江田)	B
指標 ① 生活指導部会を月1回実施し、いじめや暴力行為、不登校児童等の学年の児童の実態を共有することで、早期発見・早期対応する。また職員会議でも児童理解を行い、情報共有する。 ② 不登校児童や登校渋りのある児童には、小会議室を利用し、登校しやすい環境作りをする。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ポジティブ行動支援の「3つのいいね」の取り組みを充実し、子どもたちがルールを守って楽しく学校生活を送れるようにする。(山内)	B
指標 ① 各学期に1回以上、児童の問題行動や望ましい行動に対する記録を計測し、問題行動の減少率や望ましい行動の上昇率を鑑みながら取り組みに対する効果を振り返る。	

② 月 1 回のポジティブ行動支援推進チームの会議で取り組み状況の共有を行う。	
取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 児童会活動や縦割り活動を充実し、一人一人が活躍する場を多く取り入れることで自己有用感を育む。 (松村)	A
指標 ①全校オリエンテーリングや、たてわり班活動を通して、学期に 1 回以上他学年との交流を行う。 ②あいさつ週間を年 3 回実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ① 「集団育成」というテーマが現段階で本校には適切であり、様々行事や授業において意識して取り組むことで、子どもが自発的に話し合いをしたり、お互いを認め合ったりするなど、安心感や自己肯定感の向上を図ることができた。 ② 6 月までに人権教育実践計画を作成、全体に周知し、それぞれの学年の課題を共有・把握し、各学年や学級の実態に合わせて改善しながら学校全体で取り組み実践していくことができた。	
取組内容② ① 生活指導会を計画通り、月 1 回実施し、児童の実態を共有した。また、職員会議でも児童理解を行い、情報共有することができた。 ② 不登校児童や登校渋りのある児童には、小会議室を利用し、登校しやすい環境作りができた。	
取組内容③ ① 遅刻数の計測やあいさつグラフの掲示など児童の望ましい行動に対する記録の計測を行うとともに、生活指導部会などで取り組みに対する効果などを振り返りながらいいねキャンペーンやあいさつクラブなどの活動を行うことができた。 ② 生活指導部会で定期的にいいねシールの使用具合などの各学年の PBS に対する取り組み状況やあいさつなどの子どもの望ましい姿を増やす手立てについて話し合うことができた。	
取組内容④ ① 行事や児童集会において、たてわり班や他学年との交流を行うことができた。また、子どもまつりを再開したことにより、交流の機会を増やすことができた。 ② 運営委員会を中心に学期に 1 回計画通り実施することができた。	
次年度への改善点	
取組内容① ① ピア活動がどのようなものかの研修を行う。 ② 「集団育成」というテーマが現段階で本校には適切であることから、今年度の実践を参考に引き続き次年度に生かしていく。教職員全体に知らせる場や方法をつくる。	

取組内容②

- ① 今後も継続してコンスタントに話し合いの機会を設けていき、教職員全体で共有する。そうすることで、児童の小さな変化にも気付けるよう心掛ける必要がある。
- ② 小会議室を利用することで、不登校児童が登校しやすい環境を作ることができたので、今後も継続していく。登校しづらかった児童に対しては、別室だけでは十分な効果が得られないため、学級をベースに場所や状況、方法などを検討する必要がある。

取組内容③

- ① 測定したデータでの振り返りや教員が感じている子どもの実態とデータ上の数値がうまく噛み合わないことがあった。育てる子ども像を明確にした上で、各学年の子どもの実態に応じた取り組みを行っていく必要がある。また、データを記録する際は、データの測り方についても今後は検討していく必要がある。
- ② いいねシールの活用だけでなく、子どもの望ましい姿を増やす各学年の取り組みについて生活指導部会を始め、全体でも共有できる場を設けられるとよい。

取組内容④

- ① 次年度も継続してたてわり班活動や児童集会を行っていくようにする。児童集会はほぼ週に1回あるので、指標を変えていく必要がある。
- ② 次年度も継続して行っていくようにする。ポジティブ行動支援のあいさつ活動と連携していけるようにする。

(様式2)

大阪市立巽東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を前年度以上(R5 42%)にする。 ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R5 67%) <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートで健康に関する項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>子どもたちが「わかる」授業の工夫をし、学力の向上を図るとともに、考える時間・振り返る時間を確保し、思考力を育成する。(越川)</p> <p>指標</p> <p>① 算数科の学習において、見通しで自分の考えを書いたり、授業で分かったことを書いたりする。</p> <p>② 中高学年で専科制を実施し、専門性の高い授業を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内研究や研修を充実させ、教員の指導力向上を図ることを通して「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進める。(越川)</p> <p>指標</p> <p>① 研究教科である算数科の授業研究会6回と校内研修会を1回以上実施する。</p> <p>② メンター研修を学期に1回以上実施する。</p> <p>③ 研究教科だけでなく、様々な教科の授業を見学する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝の学習・放課後学習等を通して、基礎基本の学力の定着を図る。(吉野)</p> <p>指標</p> <p>①朝の学習(読書タイム含む)を週に2回以上行い、基礎学力の定着を図る。</p>	B

<p>②休み時間や放課後を使って補修を行い、学習を定着させる。</p> <p>③ 学びコラボレーターによる放課後学習で補充学習の機会を設け、個に応じた基礎基本の学力の定着を図る。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>休み時間や放課後等を活用し運動する機会を増やすとともに、体育科の授業内容の工夫を進めることを通して、運動することが好きな児童を増やす。(青山)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>① 運動することが好きになるような取り組みや、体育の技術指導について校内研修を年に1回以上行う。</p> <p>②ICTを活用して体育がしやすいように環境を整備し、ICT機器を使用した指導を年1回以上行う。</p> <p>③体育で使用するワークシートなどの資料を共有できるようにする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>感染症をはじめとする病気や学校内でのけがを予防するとともに、健全な食生活に対する理解を深めることを通して心身の健康の保持・増進を図る。(田中)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>① 養護教諭による児童の健康保持増進に関する保健指導を年間3回実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>① めあて、見通し、考え、まとめの流れが定着し、児童自らが考えてノートに書く力がついた。書く活動を積極的に行い継続したことで、言葉や図、表などを用いて自分の考えを表現できる児童が多くなった。</p> <p>② 様々な工夫がされた専科の授業により、児童は興味関心を持って学習に取り組むことができた。</p> <p>取組内容②</p> <p>① 算数科の授業研究会と校内研修会を行い、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>② 計画的に実施できた。</p> <p>③ 学級間での見学は行っているが、他の学級への授業参観はできなかった。</p> <p>取組内容③</p> <p>① 読書タイムは定着し、チャイムと同時に児童は自ら座って本を読む姿が見られるようになっている。朝学では、復習問題を中心に取り組むことで、計算力等が伸びてきている。</p> <p>② 多くのクラスで放課後に教室で自習学習や補修等の時間を設けることで、学習の定着が低い児童への指導ができている。</p> <p>③ 学年や人数を絞ったことに対する賛否はあると思うが、学びコラボレーターによる放課後学習では、学年ごとに学習の進度にあった指導をしてもらえるので、補習学習として最適であった。</p>	

取組内容④

- ① 縄跳び週間の実施や各学年・学級の指導で、運動することが好きになるような取り組みができた。メンター研修で体育についての内容を扱い、技術力の向上や知識の共有を図ることができた。
- ② タブレットを授業で活用しやすくするための環境整備として、ダンボールでタブレット固定台を作成したが、固定台はなくても使える状態だった。動画サイトやNHKforSchoolなどを利用して手本の動画を見せるという活用はできた。
- ③ 学習系、校務系それぞれの共有フォルダに体育で使用したワークシートや資料を共有できるフォルダを作成した。

取組内容⑤

- ① 年3回の保健指導ができた。ほけんだより、保健室前掲示物、委員会活動のせいかつしらべなどから健康について意識することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ① 継続して指導していく。
- ② 継続して児童が興味関心を持てる授業を行う。

取組内容②

- ① 引き続き研修会を行っていき、課題をみつけ研究を深めていく。
- ② 教員の苦手分野についての研修を、アンケートなどをとったうえで実施する。
- ③ 頻繁な授業の見学は難しいため、研究授業の小を研究教科以外でも実施するなどの対策が必要。

取組内容③

- ① 朝学だけでは十分ではない現状なので、授業の隙間時間をうまく利用して、2、3分でできる計算など反復練習を毎日くりかえしできるように取り組んでいく。
- ② 会議等の時間短縮や精選をし、日々の放課後の時間を確保していく。
- ③ 高学年もしてほしいという意見もあるが、十分な補習学習という観点では、指導者の人数にも限りがあるので、来年度も今年度と同じようなやり方で継続していく。

取組内容④

- ① 学校として行う「運動が好きになるような取り組み」は、前年度までの取り組みやその年の児童の実態を鑑みて内容を考え、継続していく。研修の内容は、教員のニーズに合わせて1学期や2学期に行うようにする
- ② ICTを活用した指導方法について、その年の体育指導に生かせるよう1学期や2学期など早い時期に共有する。
- ③ ワークシートや資料を共有するフォルダは、次年度も残して引き継げるようにし、体育の指導に生かせるようにする。

取組内容⑤

- ① 継続的に指導を行う。また感染症や現状に合わせた取り組みを行い、指導の幅を広げていく。

(様式2)

大阪市立巽東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(R5 67%)より増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け取り組む。(田川) <hr/> 指標 ① 週3回以上タブレットを使用する機会をつくる。 ② プログラミング教材を使用した学習を年1回以上実施する。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革を進める。(田川) <hr/> 指標 ① SSSの効果的な活用を工夫し、業務の分担を図る。 ② 職員会議、研究授業(大)の日を5時間下校にし、会議後に業務を行う時間を確保する。	B
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学校図書館や学級文庫、区の図書館等を積極的に活用し、読書習慣の定着を図る。(中) <hr/> 指標 ① 図書委員会を中心に、本が好きになるような取り組みを年2回実施する。 ② 週1回読書タイムを設定し、読書習慣が身につくようにする。	B
年度目標の達成状況や取組内容の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ① 実施できており、利用率は昨年度よりも上がっている。 ② 学校にあるプログラミング教材(コーディーロッキー)を使って授業を行ったり、出前授業でプログラミング教室を実施したりした。	

取組内容②

- ① SSS に印刷等の業務を分担してもらえることで教職員の働き方改革につながっている。
- ② 計画的に実施できた。

取組内容③

- ① 計画通り実施できている。学校アンケートでは、「読書が好きか。」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合が 90%であった。
- ② 学校全体で毎週実施することができている。

次年度への改善点

取組内容①

- ① 週 3 回以上タブレットを使用する目標は達成できたが、最重要目標である「8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする」については達成できていない。また心の天気についても 40%程度の入力率である。来年度は、心の天気の入力を指標に入れ、入力率が向上するようにする。
- ② コーディーロッキー等のプログラミング教材の研修を実施し、指導に生かす。

取組内容②

- ① 引き続き SSS の効果的な活用を工夫する。
- ② 職員会議、研究授業（大）の日を 5 時間下校にすることが業務を行う時間が確保されたと実感できない教職員もいる。授業時間を減らしていく取り組みが必要。

取組内容③

- ① 全体への放送ばかりではなく、学年に合った取り組みを考え、実施していく。
- ② 継続指導。クラスによってどのように実施でいているのか把握する必要がある。